

沖縄県内のクロマグロの体長組成、漁場位置の推移 (日本周辺高度回遊性魚類資源調査委託事業)

福田将数

1. 目的

沖縄周辺海域のマグロ類の漁獲データ・生物学的情報の収集・解析を行い、マグロ類の資源評価に必要な基礎資料を収集すること、特にクロマグロの漁況、漁場の推移等を調べ、県内漁船の効果的な操業に役立てることを目的とする。

2. 材料及び方法

魚体測定

4月は2日間、5月は17日間、6月は14日間、糸満新港に水揚げされたクロマグロの尾叉長を測定した。測定データは、日本エヌ・ユー・エス(株)に送付した。

3. 結果及び考察

2001年(4月22日～6月22日)の糸満新港での水揚げは、4月が17尾、5月が143尾、6月が58尾、合計218尾であった)。4月の尾叉長範囲は171～219cmで、平均尾叉長は196.2cmであった(図1)。5月の尾叉長範囲は169～229cmで、178cm付近と202cm付近にモードがあり、平均尾叉長は201.8cmであった。6月の尾叉長範囲は188～252cmで、208cm付近と220cm付近にモードがあり、平均尾叉長は213.1cmであった。全体(4～6月)の尾叉長範囲は169～252cmで、176cm付近と208cm付近、216cm付近にモードがあり、平均尾叉長204.3cmであった。

4月の体重範囲は100～196.2kgで、平均体重は143.6kgであった(図2)。5月の体重範囲は85～239kgで、140～150kg台にモードがあり、平均体重は155.5kgであった。6月の体重範囲は118～342kgで、140kg台にモードがあり、平均体重は169.4kgであった。全体(4～6月)の体重範囲は85～342kgで、100kg台と140kg台にモードがあり、平均体重は158.3kgであった。

1998年から2001年までの漁期中の体長組成を図3に、体重組成を図4に示した。年別の体長組成は年

により大きく変動している。2001年の尾叉長組成の図のモードの一つに216cmがあるがこれは1998年の180cmから1999年の194cm、2000年の210cm、2001年の216cmへと成長した卓越年級群と推定される。

2000年の体重組成の図は180kg台にモードがあるが、これは1998年の130kg台から1999年の140～160kg台、2000年の180kg台へと成長した卓越年級群と推定される。

今年の盛漁期は、例年と同じく5月中下旬だった(図5)。5月中は沖縄南～南西海域で漁況が良かった(図6)。今年の糸満新港の水揚げは220尾で、去年(483尾)の半分以下まで落ち込んだが、生物学的な原因としては、1999年の186～194cm付近の年級群が大きな年級群であったため、1999年は多くのこの年級群が漁業等により減耗したため漁獲が減少した可能性が考えられる。また社会学的な原因としては何らかの理由で沖縄近海で操業する漁船数が少なく、結果として水揚げが減少したことが考えられる。

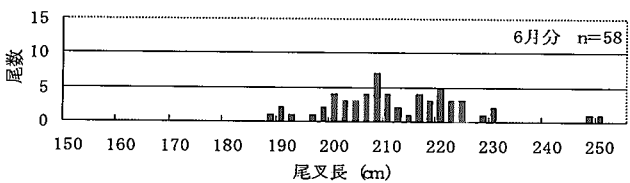
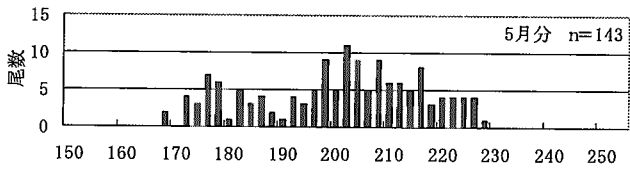
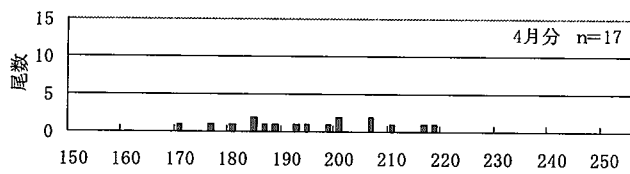


図1 糸満新港, クロマグロ月別尾叉長組成

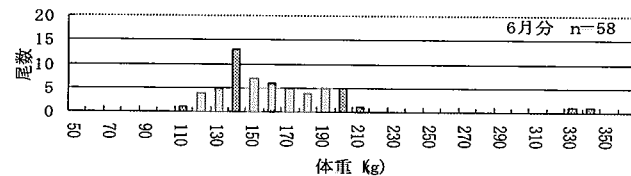
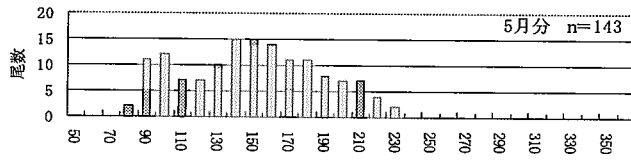
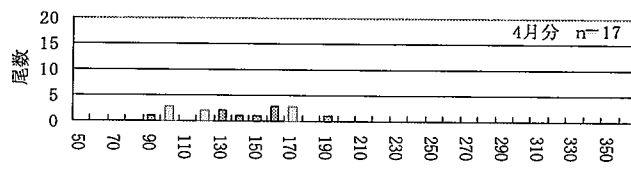


図2 糸満新港, クロマグロ月別体重組成

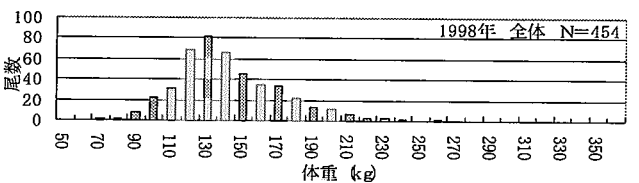
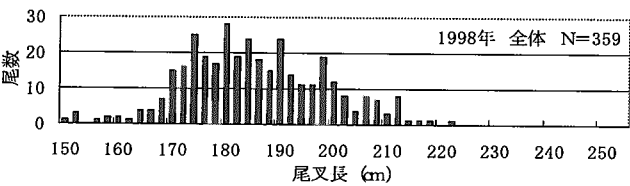
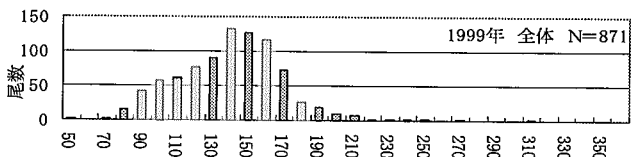
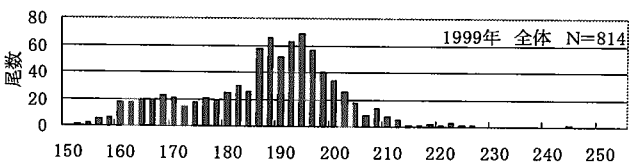
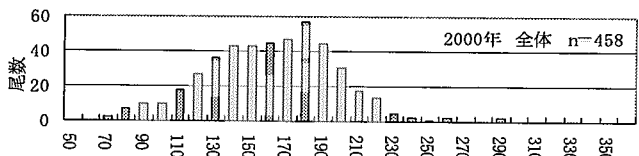
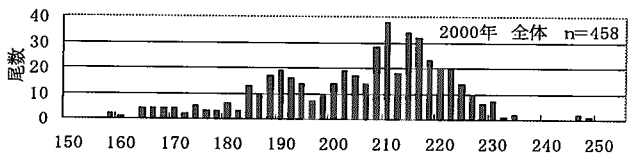
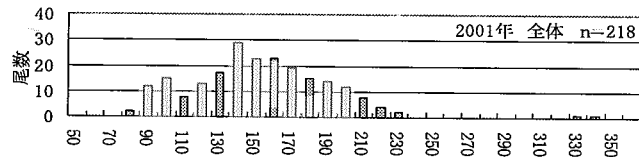
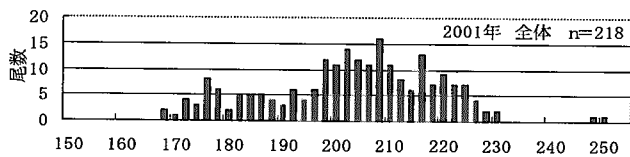


図3 糸満新港, クロマグロ年別尾叉長組成

図4 糸満新港, クロマグロ年別体重組成

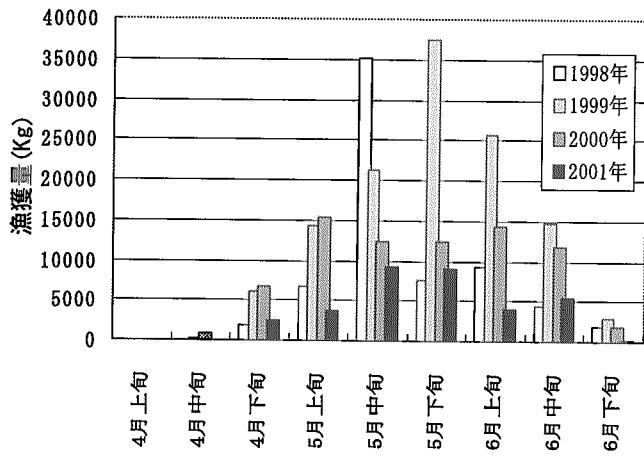


図5 旬別クロマグロ漁獲量

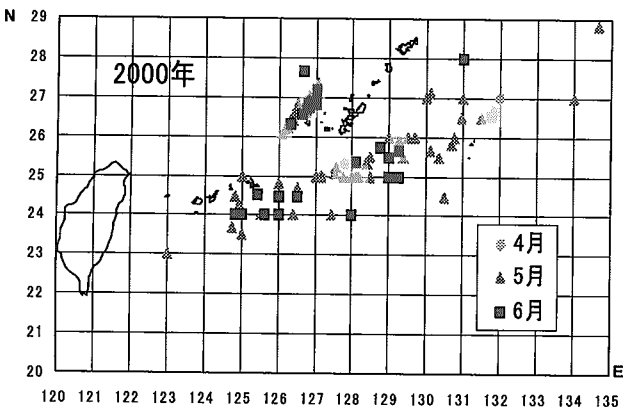
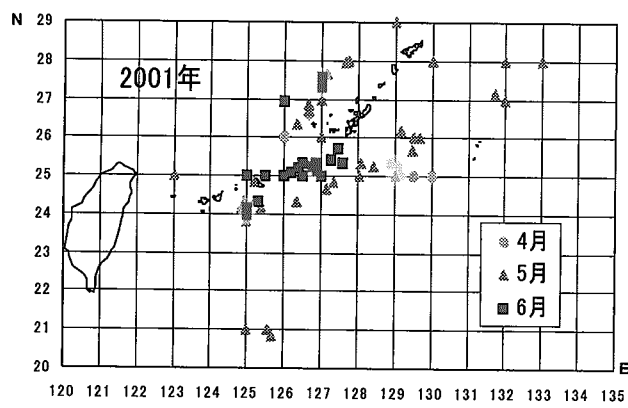


図6 年別クロマグロ延縄漁場位置